



DSO参加機関の公開イベントご案内

◆産総研 第9回 介護に関する勉強会◆ 「介護は突然やってくる -その日の前にすべきこと(仮)」

【日時】 2011年12月12日(月) 13:30~15:30
【講師】 太田 差恵子 氏

離れて暮らす親のケアを考える会 NPO法人パオッコ 理事長であり、遠距離介護を中心とした講演や新聞などへのエッセー・記事の執筆、またファイナンシャルプランナーの資格をお持ちで、介護とお金に関する様々なお仕事もなされています。

【趣旨】 介護の覚悟はしていても「まだ大丈夫」と安心してはいませんか？ その日を想像したり準備することを、避けていないでしょうか？

病气や怪我は突然やってきます。1年で急激に弱くなることもあります。「事前の準備」こそが介護負担を大きく減らし、家族や経済基盤である仕事への影響を最小限に食いとめてくれます。

このような趣旨のもと、遠距離・近距離・同居、家族での話し合い、認知症の予防や早期診察、経済的な準備などについてご講演を行っていただく予定です。

【対象】 研究機関・大学などの方、どなたでもご参加いただけます(参加費無料)



【場所】 産業技術総合研究所 つくば中央第一 共用講堂2階 大会議室
※大阪や名古屋など産総研地域センターでもTV会議システムにて同時配信予定です。地域センターで受講を希望される方はお問い合わせ下さい。お近くの会場をご案内いたします。

【申込】氏名・所属(機関名・大学名)・メールアドレス・参加会場・事前質問(もしあれば)をご記入の上、下記連絡先まで電子メールにて、2011年12月7日(水)までにお申込ください。

【詳細】 <http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/>
【連絡先】 産業技術総合研究所 ダイバーシティ推進室 介護勉強会担当 e-mail:worklife-sec@m.aist.go.jp
TEL:029-862-6418

◆理化学研究所「うつ病・認知症シンポジウム」◆ -両疾患の解明・治療に向けて-

これまでの研究で解ったこと、解っていないことを解説するとともに、社会の構造の変化のなかで更なる増加が想定される両疾患について社員やその家族という立場で直面するであろう企業がとるべき戦略とは何か、討論を通じ、両疾患の解明・治療に向けた研究の進め方についてともに考える。

【日時】 2011年12月8日(木) 14:00~17:00
【場所】 イイノホール(東京都千代田区内幸町) 入場無料
【主催】うつ病・認知症コンソーシアム、理化学研究所
【申込および詳細】 <http://dd.umin.jp/index.html>

お役立ち情報

◇国立女性教育会館 平成23年度研修◇ 「大学職員のための男女共同参画推進研修」

社会・地域に大きな影響を与える大学において、男女共同参画が推進されるよう、大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等を対象として、管理職として必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行います。

【日時】 2011年12月8日(木)~9日(金) 1泊2日
【場所】 国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)
【主催】 独立行政法人 国立女性教育会館
【参加者】 大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等 80名
【詳細】
<http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2011/page09i.html>

◇つくば市 つくば男・女(みんな)のつどい2011◇ 講演 「心の葛藤を生きること」

講師:きたやまおさむ氏
精神科医、臨床心理学者、作詞家、ミュージシャン。「ザ・フォーカクルセダーズ」の元メンバー。「戦争を知らない子供たち」「あの素晴らしい愛をもう一度」などの作詞でも有名。
【日時】 2011年12月3日(土) 10:00~13:00
【場所】 つくばカピオ(入場無料)
【内容】講演会のほか、弦楽四重奏ミニコンサート、子どもイベント、産官民の参加団体によるパネル展示・報告などが行われます。

【主催】 つくば市
<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/13/885/635/009503.html>





シリーズ: DSO参加機関のご紹介 ⑤

DSO参加機関同士の理解を深めるため、各機関の紹介と最近の取り組みについてご紹介します。

*** 独立行政法人 物質・材料研究機構 ***

【機関概要】

物質・材料研究機構は、平成13年4月旧科学技術庁所管の金属材料技術研究所と無機材質研究所が統合して設立された、物質・材料の研究を総合的・専門的に行う研究機関です。「使われてこそ材料」の理念のもと、金属、セラミックス、有機材料など様々な物質・材料について幅広い研究を行っています。つくばの3地区(千現、並木、桜)を主な拠点として活動しています。職員数は定年制職員539名、任期制職員等910名(うち男性1010名、女性439名)の合計1449名です。(平成23年4月1日現在)

【男女共同参画への取組】

当機構では、男女とも働きやすい環境を整備するため、平成18年9月に「男女共同参画グランドデザイン」を制定し、職場環境および働き方の改革、育児・介護等の支援、隠れた人材の職場復帰支援等の活動を行ってきました。

具体的には育児短時間勤務制度、部分在宅勤務制度、看護休暇等勤務制度の整備、育児中の職員が業務補助員を雇用する際の経費助成をする「育児中職員支援制度」、育児等により研究をやめた女性が再度学位取得を目指すことを支援する「再チャレンジ支援制度」、隠れた人材の発掘とその活用を目的とする求人・求職データベース「人なび」の運営などです。

また、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を策定・実行し、平成21年4月には「子育てサポート事業主」の認定(厚労省)を取得しています。

当機構の男女共同参画の取組は、当初、人材開発室に男女共同参画チームを設け、スタートしましたが、平成21年3月に独立した組織として男女共同参画デザイン室を設置し、体制を強化して現在に至っています。



くるみんマーク



人なび

【本所所在地】茨城県つくば市千現1-2-1

【ウェブサイト】<http://www.nims.go.jp/>

ダイバーシティ・サポート・オフィスのご案内

男女共同参画の取り組みを進めている公的研究教育機関17機関では、ダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)を組織し、ワークライフバランス支援や意欲触発支援のノウハウを蓄積・発信・共有しております。「DSO参加機関のイベントのご案内」のような、イベント相互参加もそのひとつです。DSO活動についてのお問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ。

*DSOメンバー(参加順): 産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業環境技術研究所、千葉大学、筑波大学、神戸大学、農業・食品産業技術総合研究機構、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、農業生物資源研究所、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院

編集後記

11月1日(火)・2日(水)筑波大学東京キャンパスにて行われた、文部科学省 女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現」に参加してきました。同事業に採択された52の大学や研究機関が一同に介し、グループディスカッションを通じて、これまでの成果、効果的な施策、課題などについて報告・議論することで、大変に密度の濃い情報交換が行われました。私達もDSO活動について説明を行うとともに、DSO・九州沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)・四国女性研究者ネットワーク・けいはんな女性研究者ネットワークによるミニシンポジウムを行い、ネットワーキングについて議論し交流を深めました。実務者ならではの様々な意見や考え方などを知ることができ、非常に有意義なシンポジウムだったと思います。(事務局 長久保)

□ ご意見や掲載希望記事・企画がありましたら、遠慮なくDSO事務局までご連絡ください □